

## 1. はじめに

我々は、東日本大震災発生時の ICT の活用について様々な調査を行うことで、ICT が震災時どのような役割を担っているのかを検証しました。その結果、SNS が震災時の情報共有や助けを求めるツールとして役に立っていたということが分かりました。

そこで、SNS で助けを求める発言を調べた結果、以下の問題があることが分かりました。そして、それらに対する解決策を考えました。

1. 既に解決した情報をいつまでも拡散し続けてしまう  
⇒ 一方的な拡散をコントロールする
2. 本当に知ってもらいたい情報が見つげにくい  
⇒ 緊急性の高い情報を一目で分かるようにする

## 2. システム概要

「ダレカタスケター」システムでは、既存の SNS に拡張を加えることで「助けて」を発見しやすくなり、かつ、SNS と連携することによって情報の拡散や収束の手助けになります。

具体的には、詳細リンク先で解決済みかどうか確認でき、すでに解決された情報が SNS でそれ以上拡散され続けることを防ぐことができます。

救援を求める際には、専用の画面から SNS に投稿する形にすることで迅速にかつ正確に、情報を送信することができます。

- ① 救援要請を送信
- ② 『ダレカタスケター』が各 SNS に投稿する
- ③ 投稿が拡散される
- ④ 救援可能な人が情報を発見
- ⑤ ④の人が直接救援
- ⑥ 救援完了を報告
- ⑦ 救援完了後は画面が変化

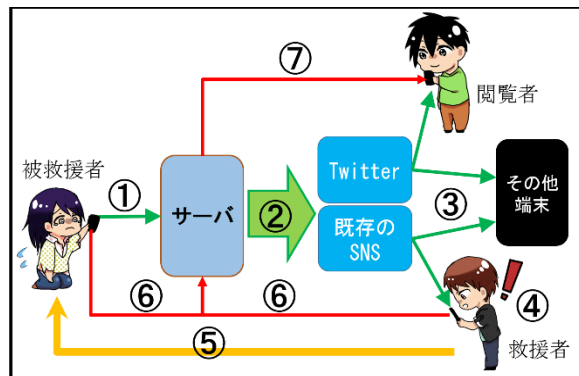


図1 システム構成図

## 3. ダレカタスケターの主な機能

### 3-1. 救援ステータス判別機能

閲覧する SNS の救援情報を色付けして強調することが出来る機能です。

本アプリケーションから発信された救援は、サーバ側で個別に URL が割り振られ、その救援の現在状況は Web ページで管理されます。

また、発言に付加された URL のページでこの救援の詳細を閲覧することが出来ます。

### 3-2. 経過の見守り機能

気になった「助けて」を、後から簡単に確認出来る機能です。

発言者を記録する「経過の見守り機能」により、以前見た「助けて」のその後を、簡単に確認することが出来ます。



### 3-3. 救助完了の報告機能

自分が助かったことを報告出来る機能です。

救援ごとに割り振られた個別 ID に紐付けされた URL でその情報を閲覧することが出来ます。

もし、救援を求めた人が自分でその報告をできない（意識を失った）などの状況になった場合は、救助しに行った人でも「救援を求めた人が助かった」旨を SNS に報告することが可能です。

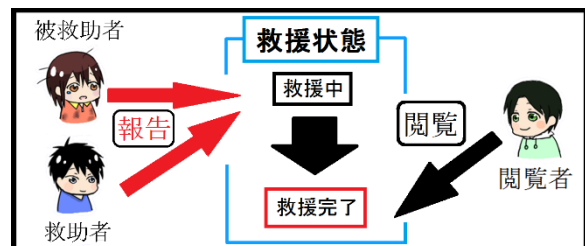


図2 救助完了の報告

## 4. 終わりに

本アプリで、もっとたくさんの人に知ってもらいたい「助けて」という情報を、他の情報に埋もれさせることなく、たくさんの人のもとに送ることで、それが本当の助けにつながれば…と考えています。